

4 活動の流れ（具体） 6年1組：新商品開発プロジェクト

	活動の流れ	<思考力:思考ツール>	付けたい力
全体課題設定	<p>STEP 1 活動全体を通した課題をつかむ段階 (1時間)</p> <p>○小学生が考えた味のかっぱえびせんとサッポロポテトを試食する。</p> <p>神奈川と広島の小学生在が、「かっぱえびせん」と「サッポロポテト」の新しい味を開発しているよ。</p> <p>○昨年度、自分たちで新しい「おにぎり」や「キャラクター」を考案し、楽しさや難しさを経験している児童が多いことから、活動に対する興味関心をもたせ、課題を設定する。</p> <p>6年1組でもやってみたい</p> <p>課題 サッポロポテトとかっぱえびせんの新商品を作ろう！！</p>		C 課題意識をしっかりと もって、解決のために 工夫しながら活動する
課題設定	<p>STEP 2 新商品開発（探究プロセス1）</p> <p>○実はカルビーから、新商品開発の募集があることを知らせる。</p> <p>カルビーからのミッションが届いたよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「サッポロポテトとかっぱえびせんの新味募集」の応募にあたっては、これまで発売された味やそのキャッチコピーを分析してほしい。 もしみんなが考えた新しい味が実現したら、パッケージにどんなキャッチコピーを入れればわかりやすいか、たくさんの人が食べたくなるかあわせて考えて欲しい。 		B-1- (1) 広く社会に目を向け、 活動の意図や目的を明 確にして、課題をつく る。
情報収集	<p>小課題1 新商品開発のために、長年親しまれている今のサッポロポテトとかっぱえびせんの秘密をさぐろう。</p> <p>○ミッション1 商品に必要な「見た目」「食感」「味」の秘密をさぐろう。</p> <p>今のサッポロポテトとかっぱえびせんを試食し、「見た目」「食感」「味」を分析する。 <まとめる：マトリックス表></p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの商品には、食べてもらいたい人（ターゲット）に合わせて、いろいろな特徴があることを知る。 <p>キャッチコピーの秘密をさぐろう。</p> <p>商品のパッケージにあるキャッチコピーを分析する。</p> <p><理由づける：クラゲチャート></p> <ul style="list-style-type: none"> キャッチコピーの必要性を確認する。 		B-3-イ 課題解決にむけて多面 的に検討する。
整理分析	<p>キャッチコピーに必要なキーワード ・商品のわかりやすさ ・インパクト ・覚えやすさ ・短くテンポが良い</p>		

<p>表現</p>	<p>○ミッション2</p> <p>小課題2 小学生が食べたい「新しい味」とキャッチコピーを考えよう。</p> <p>○自分が食べてみたい→どんな時に <広げる：K J法> みんなにも食べさせたい→どんな時に を考えながら。</p> <p>○キャッチコピーに必要なキーワードを元に、自分の考えた「新しい味」のキャッチコピーを考える。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ味、似たような味を絞り込み、グループをつくる。 <p>小課題3 グループの中で「味」「キャッチコピー」を決定しよう。</p> <p>○どのような思いで、この味を作りたいのかを話し合い、キャッチコピーを決定する。 <理由づける：クラゲチャート></p> <p>10商品を6年1組から応募しよう！</p> <p>○応募用紙に記入し応募する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごまだしうどん ・にんにくみそ ・ミートソース ・フライドチキン ・ホワイトチョコバナナ ・梅ドレッシング ・ホタテバターしょうゆ ・パイン&マンゴー ・ブラックなとうがらし ・ピリ辛めんたいマヨネーズ 	<p>B-3-イ 課題解決にむけて多面的に検討する。</p> <p>B-4-(2)ア 相手や目的に応じて効果的な方法を選択して表現しようとする。</p>
<p>課題設定</p>	<p>STEP3 商品企画売り込み（探究プロセス2）</p> <p>○カルビーに応募した10商品は落選したことを伝える。</p> <p>せっかくみんなで考えた新しい味をこれで終わりにするのか？</p> <p>○この活動をこれで終わりにするのか、続けるのかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これで終わりにする。 ・せっかく考えたんだから商品化に向けて続けていきたい。 <p>これからどのように活動していくか考えよう。</p> <p>○どんな目的で活動を続けるかを話し合う。 <広げる：K J法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで作って食べる。 ・自分たちで作った物を家族に食べてもらう。 ・自分たちの考えた味を商品にして売りたい。 ・スナック菓子以外の物で考え商品化したい。 ・カルビー以外の会社に売り込む。 ・もう一度カルビーに挑戦する。 ・お店で売ってもらう。 	<p>C-2-ア 活動全体を振り返り次の活動に生かす。</p>

<p>表現</p> <p>情報収集・整理分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ S1グランプリに参加する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">カルビーに応募した 10 個の味を食べれないかな？</div> <ul style="list-style-type: none"> ○カルビーでは実現しなかったが、商品化できないか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>自分たちで作れないかな。</u> → おにぎり選手権の時自分たちで作った。 <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">自分たちの考えた「味」のかっぱえびせん風のおかしを作ろう！</div> <ul style="list-style-type: none"> ○味付けの方法をグループで考え、調理実習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 調理の方法等は自分たちで調べる。 <p style="text-align: center;">〈調査する：本、インターネット、インタビュー〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">自分たちの作ったかっぱえびせん風のおかしを試食してもらおう！</div> <ul style="list-style-type: none"> ○自分たちで作ったかっぱえびせん風のおかしを試食してもらい、感想を集める。 <p style="text-align: center;">〈調査する：インタビュー、アンケート〉 〈まとめる：表、グラフ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 味 ・ 見た目 ・ 感想 など <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">試食してもらった結果をまとめよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ○結果から分かることを出し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大人と子どもでも好みが違う。（大人→辛 子ども→甘） <div style="text-align: center;">↓</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大人にも子どもにもうける味の開発をしたらどうか？ ・ 日常的にみんな食べている味にかえたらどうか？ ・ 大人用、子ども用に分けてはどうか？ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">たくさんの人に食べてもらうには、どうすればいいのだろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ○商品化するという目的を達成するためにどうすればいいかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 今の味にこだわり、味を改良する。 （レシピ調べ、材料、調理方法、味を濃くする など） ・ 味そのものを変える。 ・ かっぱえびせん風のお菓子ではないものにする。 	<p>B-2-A</p> <p>目的に応じた方法で効果的・効率的に資料を集める。</p>
<p>本時</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">とにかく、改良しないと今のままでは商品にならないな</div> <ul style="list-style-type: none"> ○調査結果をもとに自分たちが改良するポイントを絞る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 味が薄いという意見が多かったので「味」を改良する。 ・ ドーナツみたいという意見があったので、「もの」を変える。 ・ みんなにおいしく食べてほしいので、「味そのもの」を変える。 ○ポイントを絞ったら、問題点を挙げてどのように解決していくのか話し 	<p>B-5</p> <p>状況に応じたツールを選んで使う。</p>

	<p>合う。〈問題を解決する：P&Sシート〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">改善策を生かして、これからの活動の計画を立てよう</div> <p>○P & Sシートを活用して考えた改善策を生かし、今後の活動の計画を立てる。〈順序立てる：ステップチャート〉</p>	
<p>表現 情報 収集 情報 の 整理 ・ 分析</p>	<div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">改良の方法が分かったぞ！</div> <p>○改良点を加え、レシピを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料、分量など、細かく記録し、前回との違いをはっきりさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">自分たちの考えた「パート②」を作ろう！</div> <p>○前回の失敗を生かし考えた改良レシピをもとに調理実習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理の方法等は自分たちで調べる。 <p style="text-align: center;">〈調査する：本、インターネット、インタビュー〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">自分たちの作った「パート②」を試食してもらおう！</div> <p>○自分たちで作ったおかし（料理）を試食してもらい、感想を集める。</p> <p style="text-align: center;">〈調査する：インタビュー、アンケート〉 〈まとめる：表、グラフ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・味 ・見た目 ・感想 など <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">試食してもらった結果をまとめよう</div> <p>○結果から分かることを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・味を濃くしたらうまかった。 ・かっぱえびせん風のものではなかったら、意外に良かった。 ・食感をよくするのは難しい。 ・自分たちでは技術がたりない。 ・やっぱり大人と子どもで好みが違う。（大人→辛 子ども→甘） <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">やっぱり、お店で売っているようなお菓子はできない。</div> <p>○うまく作れないので、この活動を終わりにするのか、あきらめずに続けるのかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これで終わりにする。 ・意外とうまくできたから商品にしたい。 ・せっかく考えたんだから、どうしても商品化したい。 →文理大附属高校の生徒が考えたパンがローソンで売っていた。 →道の駅でも高校生が作ったみそを売っていた。 →高校生の考えた商品がたくさん売られているらしい。 ・自分たちだけで作るのは難しかったので、誰か作ってくれないかな。 	<p>C-1 課題意識をしっかりとって、解決のために工夫しながら繰り返し活動する。</p> <p>B-2-ア 目的に応じた方法で効果的・効率的に資料を集める。</p> <p>C-1 課題意識をしっかりとって、解決のために工夫しながら繰り返し活動する。</p>

- ・意外とうまできたけど、もっとおいしくするためには、誰かに協力してもらったほうがいい。



せっかく考えたんだから、自分たちの「味」を商品にしたいな。

- 文理大附属高校や道の駅に尋ねてみる。 <調査する：インタビュー>
- 商品にするためには何が必要かを出し合い、自分たちだけで商品化できるのかを話し合う。 <広げる：KJ法> <分類する：座標軸>

自分たちだけでは商品化するのは無理そうだ。

- 誰に協力してもらえば、商品化できるのかを考える。
 - ・家の人
 - ・先生達
 - ・地域の人
 - ・店の人
- 渡町台校区、佐伯市にはたくさんの飲食店や菓子店があること、パンを開発していた文理大附属高校、施設園芸科・食品流通科のある鶴岡高校があることに気づかせる。

課題

地域のお店の人たちに
自分たちが考えた「味」を商品にしてもらおう！

商品にしてもらうには、何が必要なのかな。

- 何が、商品化の決め手になるか考える。 <広げる：ウェビング>
 - ・味
 - ・見た目
 - ・食感
 - ・キャッチコピー
 - ・値段
 - ・お客さんの好み
 - ・旬
 - ・流行
 - など。



味の好みって、みんな同じじゃなかったよね。

- 自分たちの作ったかっぱえびせん風のおかしを試食してもらった時の調査結果をもとに、ターゲットを絞った方がよさそうなことに気づく。

好みは、大人と子どもでは違うことが試食の結果からわかったよ。

- 調査結果をもとに好みの違いを確認する。 <整理する：ベン図、マトリックス表>

B - 1

広く社会に目を向け活動の意図や目的を明確にして課題をつくる。

A - 1 - エ

立場や意図をはっきりさせ、計画的に話し合う。

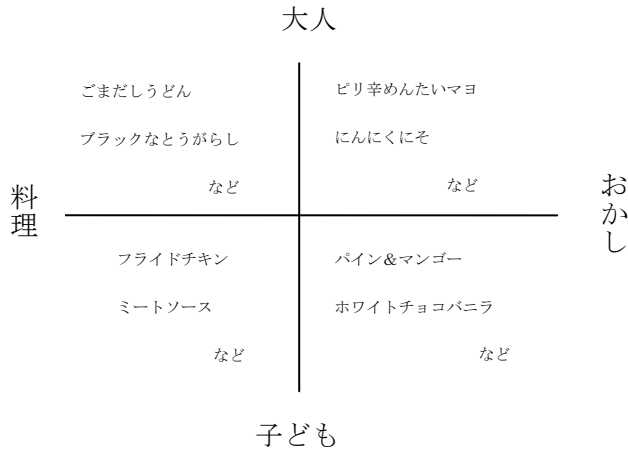
課題設定

情報の収集

整理
分析

やっぱり、味の好みで、商品のターゲットを絞ってみてはどうか。

○自分たちが考えた「味」を、子ども好みか大人好みか、お菓子にするのか料理にするのか、考える。
〈分類する：座標軸〉



B-2-A
目的に応じた方法で効果的・効率的に資料を集める。

お店の人に作ってもらうには、店や好みのターゲットをしぼった方がよさそう。

○自分たちの考えた「味」や「もの」に合う調理方法で作ってもらうことはできないか考える。
・お菓子なら子ども向けに、ケーキ屋さんかな。
・料理は、レストランとかパン屋さんかな。 など

B-3-A
体験したことと資料を効果的に関連づけて考える。

課題
設定

小課題1
子ども好みの味、大人好みの味に分かれて
プレゼンする方法を考えよう。

○どの年代にどの味が好まれるのかを調べ、新商品のプレゼンする方法を考える。
〈調査する：アンケート、インタビュー〉
○調査結果をもとに、プロジェクトチームを編成し、今後の活動の計画を立てる。

情報
収集
・
整理
分析

お店の人が「作ってみたい」と魅力を感じるために必要なものは何だろう？

○何があれば新商品を作ってくれそうか考え、根拠を明らかにし、説得力のあるものにする。
〈整理する：マトリックス、メリットデメリット〉

<p>表現</p>	<p>買い手の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな味が好きか。 ・どんな時に食べたいか。 ・どれくらいの値段だったら買うか。 ・お客さんが買いたくなるキャッチコピー など <p>売りの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・儲かる（費用がかからない） ・話題性 ・年齢層（年代問わず売れる） ・調理の手間 など <p>プレゼンテーションを作ろう。</p> <p>○お店の人が魅力を感じるプレゼンをグループごとに作る。</p> <p>○自分たちの商品を売り込むためにより伝えやすい表現方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模造紙 ・パソコンのソフト など。 <p>どのお店にプレゼンに行くのかを決めよう！</p> <p>○自分たちの味を商品化してもらいたいお店に連絡し、プレゼンを聞いてもらう日時の約束を取りつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話 ・直接伺う ・手紙 など。 <p>プレゼンに出かけよう！</p> <p>○自分たちの熱意をお店の人たちに聞いてもらい、ぜひ新商品を作ってほしいと願います。</p>	<p>調査結果をもとに、年代別に整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・棒グラフ ・円グラフ など <p>〈算数で習得した技能の活用〉</p> <p>B-4 (2) ア</p> <p>相手や目的に応じて効果的な方法を選択して表現しようとする。</p> <p>B-4-(2) イ</p> <p>資料等を効果的に使い、意図を明確にして発表する。</p>
<p>課題設定</p> <p>表現</p>	<p>STEP 4 新商品でおもてなし（探究プロセス3）</p> <p>○卒業を前に、お世話になった人たちにどんな形でお礼をするか考える。</p> <p>小課題2</p> <p>お世話になった人たちに、自分たちが考えた商品で感謝の気持ちを伝えよう！</p> <p>○いつ、どこで、どのように新商品を使って感謝の気持ちを伝えるのか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年生の時の「花の日」のようなイベントはどうか？ ・5年生の時の「おにぎりパーティー」のような会を開いてはどうか？ ・5年生の時のように家の人や先生たちを招待してはどうか？ など。 <p>お世話になった人たちに新商品で感謝の気持ちを伝えよう！</p> <p>○自分たちの考えた新商品で、お家の方々、先生方などお世話になった方におもてなしする。</p>	<p>A-2-ア</p> <p>力を合わせて成し遂げる。</p> <p>C-2-ア</p> <p>活動全体を振り返り次の活動に生かす。</p> <p>C-3</p> <p>他者や地域社会とともに、学んだことを実践していこうとする。</p>

